骨折で急激にADLが低下した高齢者に対し、 医療と介護の専門職が連携して 支援を行うことで、 介護負担の軽減につながった事例

サカ緑井病院居宅介護支援事業所

小笠原 良二



事例の紹介

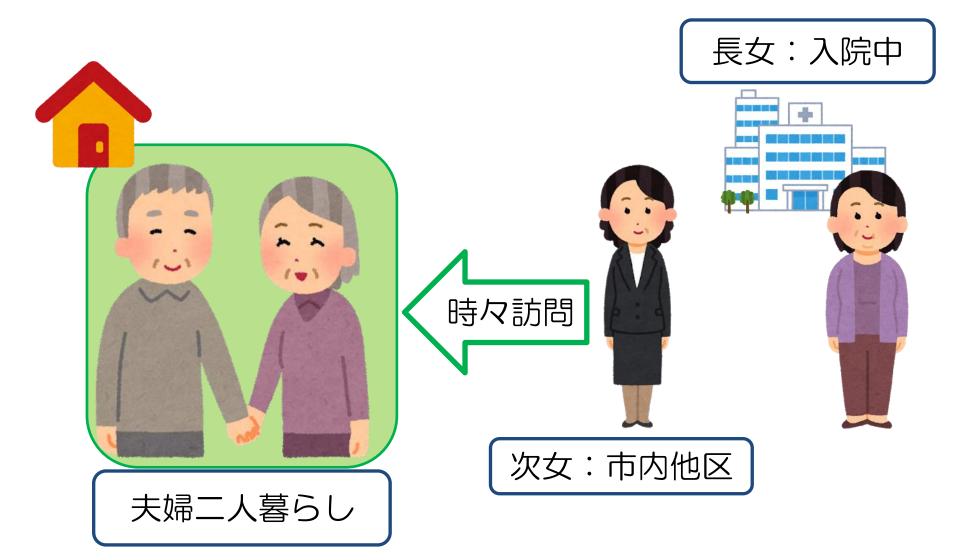
A氏 女性 80代後半 要介護2

障害高齢者自立度 A2



認知症高齢者自立度 自立

事例の紹介



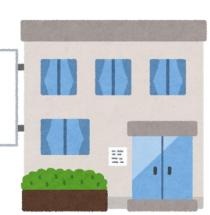
第一期 介護認定申請、福祉用具貸与サービスの開始まで



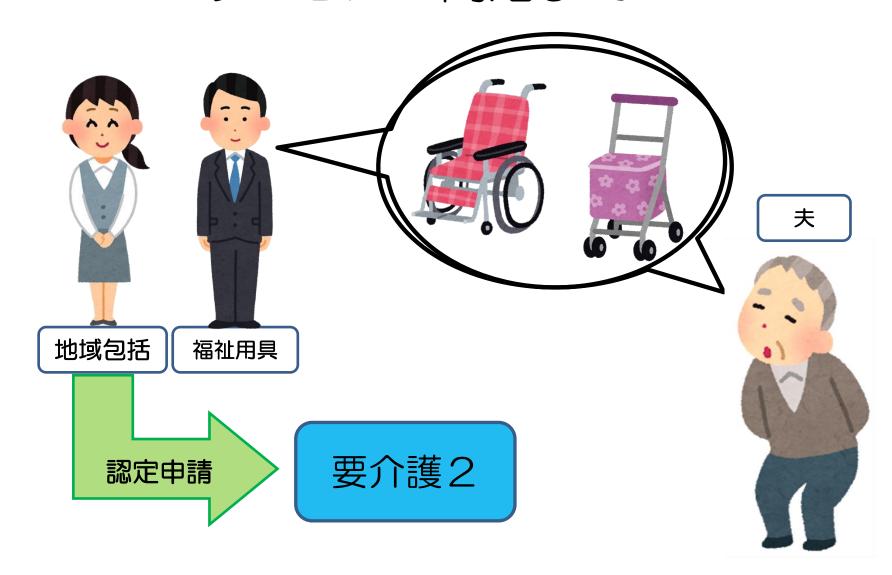
変形性腰椎症 腰部脊柱管狭窄症



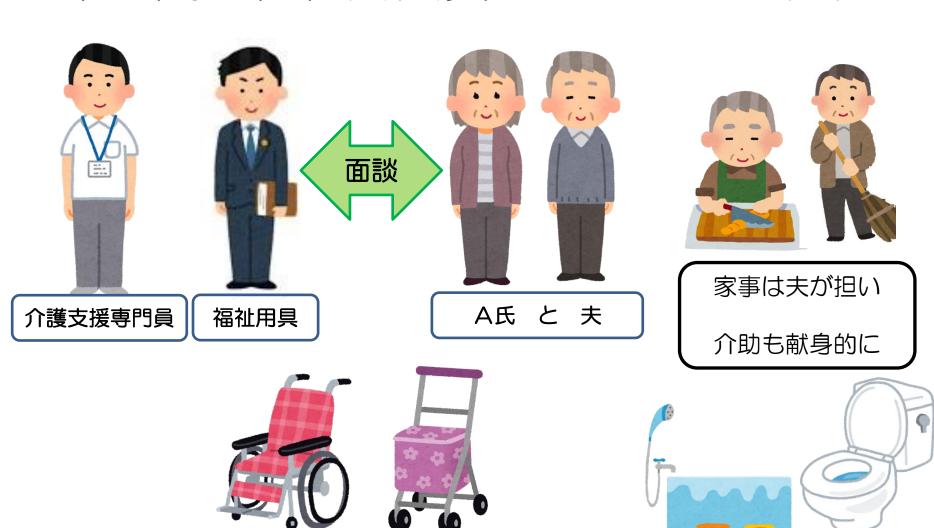




第一期 介護認定申請、福祉用具貸与サービスの開始まで

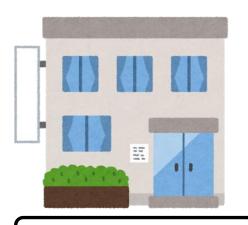


第二期 福祉用具貸与サービスの継続



福祉用具のレンタルのみで継続

第二期 福祉用具貸与サービスの継続



整形外科への通院



痛み止めの服薬





第三期 パーキンソン病の診断、

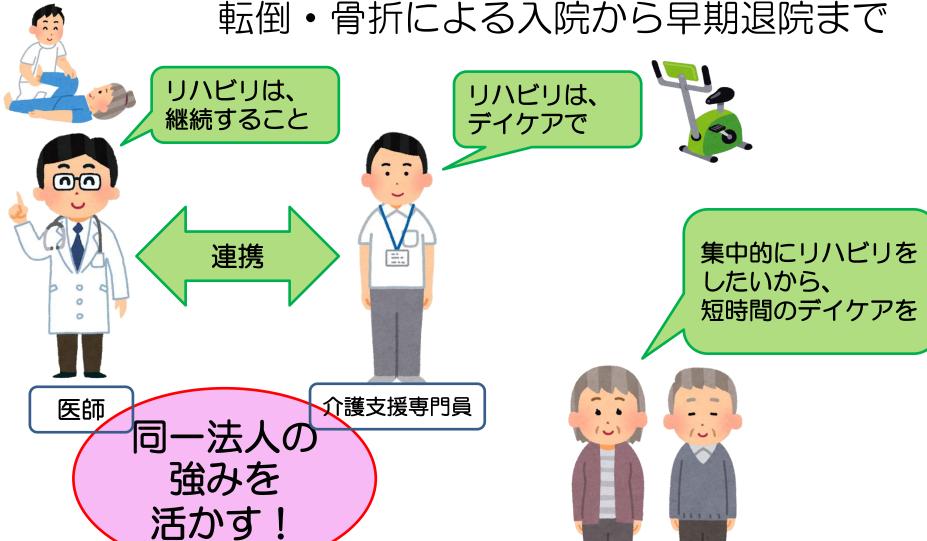
転倒・骨折による入院から早期退院まで



第三期 パーキンソン病の診断、 転倒・骨折による入院から早期退院まで



第三期 パーキンソン病の診断、



第三期 パーキンソン病の診断、

転倒・骨折による入院から早期退院まで



第三期 パーキンソン病の診断、 転倒・骨折による入院から早期退院まで



退院翌日からの 切れ目のない リハビリ

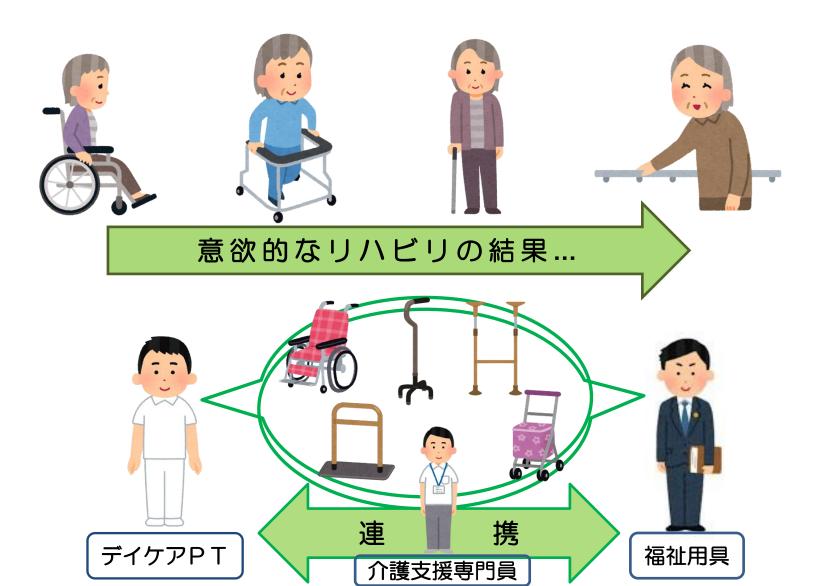


夫が送迎



デイケア 週5回 リハビリへの意欲は高い!

第四期 歩行状態の改善、 状態に合わせた福祉用具の見直し



考察

ADLの低下が2回あり、介護量の増加があったが...

☆その都度、各専門職との連携を図った

☆老々介護での負担軽減→在宅生活の継続へ

☆リハビリ内容や住環境、補装具等の見直し → リハビリへの意欲を引き出す

☆自宅から近い病院やデイケア → 活動量の低下を予防

おわりに



ご清聴

ありがとう

ございました

